



第708回例会 2006年 2月22日(水)

# SAKAI NAKA ROTARY CLUB

# 中友

〈堺中ロータリークラブ〉

創立 1991.4.9

例会日 毎週水曜日 午後6時30分

例会場 〒599-8237 大阪府堺市深井水池町3238 ガバナー(第2640地区) 平尾寧章  
ウエディングカーニバル サンパレス内 会 長 池田幸二

事務局 〒599-8237 堺市深井水池町3254 フランシーズ301号 幹 事 橋本宗夫

TEL 072(279)9074 FAX 072(279)9094 クラブ会報委員長 大曲一

E-mail sakainak@d2.dion.ne.jp クラブ会報副委員長 白濱章

E-mail info@sakainakarc.org

URL <http://www.sakainakarc.org>



SERVICE Above Self

超我の奉仕

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー  
2005～2006年国際RI会長

2005～2006年度 No.31

## 本日の例会

会員を減らさないで、増やしましょうフォーラム

会員増強・退会防止委員長 奥田 均

次回の予告 3月1日(水)

青少年・地域ふれあい事業インフォメーション

委員長 久保 善見

2005-2006年度 地区テーマ

例会を充実し、出席率の向上を

2005-2006年度 クラブテーマ

15年の歩みを大いに語り、

ロータリーライフを楽しみましょう

4つのテスト —言行はこれに照らしてから—

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

# 会員卓話



小谷 寛会員

(小谷城資料館 館長)

# 物の はじまりや なんでも 堺

郷土堺の歴史や考古・民俗を趣味と仕事を兼ね少し勉強させていただいております。標記のフレーズは明治に流行りました。下の句に「三味も小唄もみな堺」と続きます。堺は応仁の乱(1467~1477)以降外国船が発着できる外港となり、海外から文化・物資が数多く集まりました。「さかい」そのものがブランドであり憧れで、それを取り扱う堺

商人はそのブランド力と地理的・歴史的な背景により独自の行動力で活躍をし、単に仲買人ではなく独創的なアイデアや付加価値を加えてヒット商品を生み出し全国に名を馳せました。堺商人が扱う商品は武器から舶来品、文化・芸術まで多種多様で我々日本人の歴史・文化に大いに貢献しました。

## 現代社会に大きく貢献したメイド・イン堺の商品紹介

### 中世～近世

鉄砲・線香・たばこ庖丁・三味線・金魚・傘・烏毛・菱垣廻船・堺更紗・織通・謡曲(喜多流、宮尾流)・江戸浄瑠璃・銀座・焼塩壺

### 明治以降

私鉄一阪堺線・木造式灯台・瓶詰め酒・水練学校・学生相撲・ショベルスコップ・機械縫製足袋・セルロイド工場・自転車

## 鉄砲

堺を握る者が天下を制す！  
五百挺の鉄砲が勝敗を決めた？



信長がいち早く堺を直轄地として手に入れようとしたのも、堺が鉄砲の生産地だったため。信長の天下統一への歩みも堺の鉄砲がなければ成しえなかったでしょう。



## 自転車

鉄砲の銃身が自転車のハンドルに？  
木製自転車を修理した鉄砲鍛冶

明治三十年代初め、北川清吉が堺の町を自転車で走り、人々を驚かせました。

自転車の本体は木製、車輪の部分などには鉄が使われており、走るとガタガタと大きな音をたてたので、「ガタクリ車」と呼ばれていました。

北川清吉は堺で木製自転車の貸し出しを始めた人でもあります。



## タバコ庖丁

秀吉も認めたミセスパワー。  
堺庖丁の名を高めた良妻“おかた”

江戸時代にはタバコの葉は自由に栽培できたのです。その葉を刻む庖丁こそが江戸幕府の専属品、堺のタバコ庖丁です。



## 銀座

家康と堺の銀職人がいなければ  
“銀ブラ”も“銀恋”もなかった”!?

室町時代の末頃、堺には銀を売買したり、銀細工を加工する人たちが大勢集まっていた。こうした人たちは組合を作り、各地から荒銀を買い集め、加工して売っていたのです。

徳川家康は貨幣制度を確立するため、伏見に鑄造所を作り、その技術長に堺の湯浅作兵衛を選びました。



## 線香

今も昔も本物には人気集中。  
風雅な香りは堺から漂った

安土桃山時代、日本で最初に線香を作ったのは堺ですから、昔から時代を先取りする力をそなえていたといえるでしょう。



# 私鉄 阪堺鉄道

「火をふく車」を  
遠巻きにする人にモチの雨！？  
民間鉄道の熱いスタート

明治十八年十二月。汽笛一声、列車が難波を出発しました。これが日本初の私鉄、阪堺鉄道のはじまりです。

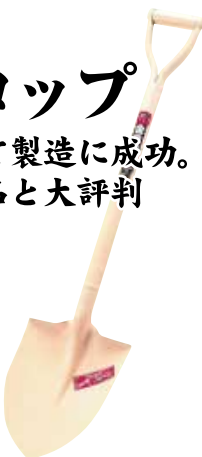


当時すでに官営鉄道が営業していましたが、一切を民間の手でなしとげられたのは阪堺鉄道だけ。

# ショベルスコップ

打刃物の技術を生かして製造に成功。  
折れず曲がらずの良質品と大評判

明治二十年頃、堺の打刃物問屋六代目浅香久平は、東京で輸入品のショベル、スコップ、ツルハシなどを目にしました。それらの工具を見ていた彼の頭にひとつの考えが浮かんだのです。「これからは日本でも土木工事が増えるに違いない。国産のショベル、スコップを作れば社会に貢献できる!!」



# 木造式燈台

「おかみがやらないなら自分たちで」  
町民パワーが灯した光

旧堺港の防潮堤近くのペンキで塗られた木造の燈台。これが堺燈台です。

明治九年、堺の近代化をすすめるため、石工・継国真吉、大工・大眉佐太郎らに請け負わせました。

当時、政府や県は余裕なしとして援助を認めなかったため、燈台の資金は、町民の寄付でまかなわれました。



# 金魚

遣明貿易で赤、白、黒の金魚が堺へ。  
江戸時代には飼育ブックも

金魚の生産といえば、今では奈良県大和郡山市などが有名ですが、金魚がはじめて日本に伝えられたのは堺の地。

金魚についての本をはじめて書いたのも堺の人。この本には、金魚のよしあしの見分け方、オスメスの見分け方、病気とその治し方などが書かれています。



# 傘 自在に開閉できる傘は ルソンみやげ。 助左衛門が秀吉に献上

今の傘のように開閉できる傘は、納屋助左衛門が南方貿易で持ち帰ったとされています。

文禄三年（一五九四）、琉球やルソン（今のフィリピン）から帰った助左衛門は、豊臣秀吉にみやげとして傘を献上。秀吉はこのほか喜び、この頃から傘が普及しはじめました。

# 鳥毛・菱垣回船

よりたくさんの荷を積むには？  
堺人の合理主義が創った船

大河ドラマでお馴染みになった呂宗（納屋）助左衛門のように、港町堺の商人たちは古くから船に親しみ、海を股にかける活動をしていました。

船に生きた堺人が元和五年（一六一九）に発明したのが菱垣回船。ヒノキのうすい板か竹を交叉させた菱垣を船の両へりに設け、多くの荷物が落ちずに積めるようにしたものです。

菱垣回船は百トンに満たない大きさで、堺の荷を江戸から北海道あたりまで運んでいましたが、その触先に必ずついていたのが黒い鳥毛。これは秀吉が朝鮮半島へ進出した折、堺の船が軍需品の輸送にあたった功により、秀吉から鳥毛を授けられたのはじまります。

以来、鳥毛は全国海上の航行自由免許の印として、堺の船の触先を飾りました。



# 商業定期航空

堺の海上から高松へ。  
初の民間定期便が飛ぶ。

堺・高松間の定期航空が、わが国商業定期航空の第一号です。これは、大正十一年（一九二二）、堺のパイロット、井上長一が市から大浜の水面を借りて、日本初の民間飛行場（日本航空輸送研究所）をつくり、定期航空をはじめたものです。



# 瓶づめの酒

枡の量り売りでは、お酒がこぼれる。  
そこで考えついた画期的アイディア

もともと日本酒は全部樽詰めで、小売りは枡で量り売りしていました。枡から壺に移す際どうしてもこぼれるお酒もったいない。そこでそのロスをなくそうと、瓶づめの酒を考案したのが堺の酒造業者であった鳥井駒吉です。

アイディアマンの駒吉は、ビールの将来性に早々と目をつけ、後のアサヒビール、大阪麦酒を創設しました。



その他、日本で最初に創られたモノに「医書大全」「機械縫製足袋」「三味線」「水練学校」「団地（金岡）」!